船形山（山スキー）

2011 年 2 月 25～26 日
松田他５

２月２５日（曇り）

焼石でうつされたインフルエンザの回復が遅れ、諏訪木先生が不参加、及川さんも体調不良で、渡邊さんと二人で、船形山の升沢登山口に向かう。大和インターで降り、３０分ほど山の方に走ると登山口に着き、宮城のメンバー４名と合流する。宮城側は、河北新報の方が３名、ＩＣＩ石井スポーツの方が１名で、いずれも先生とは古い知り合いである。天気は悪くないのであるが、とにかく風が強く、麓にいてもゴーゴーと山鳴りしているような感じで、これでは山頂は無理だなと思った。

支度をしてスタートする。雪はガリガリで、全く潜らない。ちょっとした急登を超えると、あとは素晴らしいブナ林の緩い登りになる。東北はブナがきれいな所が多いが、ここは特に見事で、三光の宮までは、ほとんどブナの純林のように思えた。

一群平付近のブナ林

三光の宮まで来ると大分風が強くなり、小休止して上着を着込む。ここからは蛇が岳の山腹をトラバース気味に真西に進むのであるが、かなり地図読みが難しい。何とか升沢小屋に着き、ここから一登りすると、樹林がなくなって真っ白な世界となり、風も強くなる。

升沢小屋

千畳敷を越えるとアイスバーンとなり、一時スキーを脱いだりして頂上の一角に上がると、強烈な風、ガスで真っ白な世界だ。宮城のメンバーは勝手知ったるという感じで、ほとんど視界のない中をどんどん進んでいく。こちらは少々不安になりながら後を付いていくと、頂上小屋が姿を現した。中に入ってようやく風から開放され、ホッとする。小さな小屋には薪ストーブと沢山の薪があり、早速火を点けて暖をとる。貸し切りは間違いなさそうで、みんなで店を広げる。こんないい小屋なのだが、泊まる人は少ないそうだ。落ち着くと早速宴会のスタートとなる。まだ１時頃なので今日はゆっくり飲めると鍋や焼肉、仙台名物の牛たんなどをツマミに、次々と美味しいお酒が出てくる。香り高い純米吟醸酒や飯豊の沢を担がれてきた焼酎、酒の肴は諏訪木先生とそのお仲間の話だ。

まだ会ったことのない、湯田の超人Ｆさんの話は特に面白かった。また「岩手の沢」の出版記念パーティの様々な裏話、うすゆき山荘の話、冬の夏油温泉ツァーの話、神谷坂の本当の由来、北上時代の修行話など、他にも面白い話ばかりであった。

また、Ａさんの吉祥寺の街の話、新店舗の苦労話なども、なかなか興味深かった。

小さな小屋なので、ストーブを焚くとあっという間に温度が上がり、外の天気とは裏腹に、中で暑い暑いと上着を脱いでいく。特にＳＤさん

は寒冷地仕様で、冬山にも関わらず、暑い、暑いとうちわで一生懸命扇いでいた。いつものように延々と飲んで寝る。

薪ストーブのある小屋内部

２月２６日（晴れ　風強し）

朝起きるとストーブが消えていたので、急いで点けたが、もうもうとした煙で、二階に寝ていた渡邊さんをいぶして起こしてしまった。

昨日同じ、すいとんと焼肉であるが、朝から結構なボリュームで、もういいというくらい満腹となる。片づけをして外に出ると、強烈な風で、ストックが飛んでいったりして、少々焦る。小屋のすぐ上の山頂からは、目前には荒々しい黒伏山南壁、遠くには飯豊、朝日などが良く見える。山頂から小屋を見ると、海老のシッポで埋め尽くされ、まるでお菓子の家のようだ。

海老のシッポに覆われた山頂避難小屋

船形山頂

小屋の裏で風を避け支度をして出発。ガリガリの斜面をトラバースし、アイスバーンの尾根をターンしていくが、みんなとても上手だ。特にＡさんはとてもきれいにターンしていく。ＫＢさんと渡邊さんも上手だ。すぐに升沢山荘に着き、ここでシールを付けるチームと付けないチームに分かれ、三光の宮を目指す。三光の宮からは快適なブナ林の滑降で、あっという間に登山口まで残り標識数が僅かの所まで降りてしまう。何か寂しさを感じつつ、最後の急坂を慎重に滑りおりている時、Ａさんがストックを折ってしまった。山ろくはもう春のような陽気で、山頂の強風が嘘のようだ。宮城のメンバーと再会を約して別れ、北上に戻る。

（松田記）

コースタイム

２月２５日

升沢登山口（９：１０）－　山頂避難小屋（１２：２０）

２月２６日

山頂避難小屋（８：３０）－　升沢登山口（１０：２０）

地形図　升沢　船形山